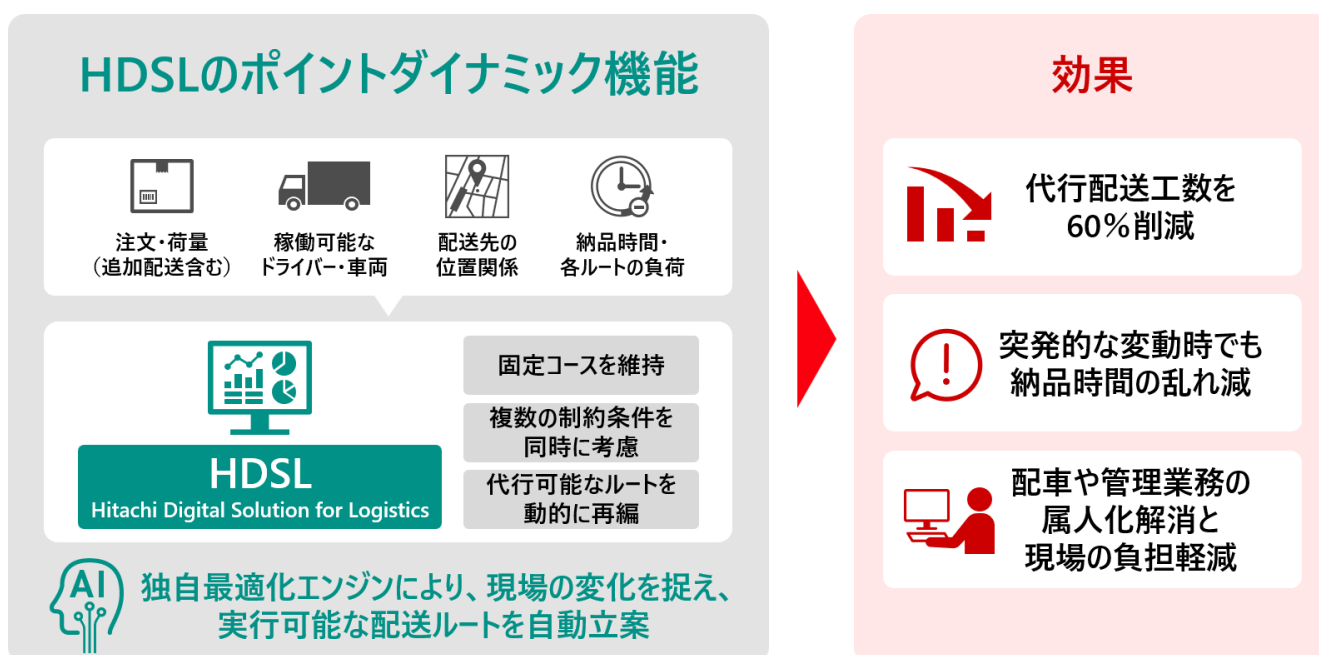


2026 年 10 月 22 日
株式会社日立製作所
株式会社ケーエスケー

日立とケーエスケー、医薬品配送 DX の実証を完了、急な状況変化にも対応する「Hitachi Digital Solution for Logistics」の配送ルート自動編成機能を 11 月より展開

HMAX Industry のラインアップの 1 つである「HDSL」を活用し、配送担当者の欠員時に営業担当者の代行配送工数を 60%削減



日立とケーエスケーが取り組む協創のイメージ

株式会社日立製作所(以下、日立)と医薬品卸の株式会社ケーエスケー(以下、ケーエスケー)は、医薬品配送業務のデジタルトランスフォーメーション(DX)に向けた PoC(概念実証)を 2026 年 9 月末に完了しました。本実証はケーエスケーにおいて、HMAX Industry のラインアップの 1 つである日立的物流ソリューション「Hitachi Digital Solution for Logistics(以下、HDSL)」を活用し、急な状況変化に応じて配送ルートを自動編成する「ポイントダイナミック機能」を検証したものです。ケーエスケーでは、従来、配送担当者に欠員が発生した際、営業担当者が配送を代行して医薬品供給を継続していました。本実証では、欠員分を他の配送担当者や営業担当者へ手作業で振り分けるのではなく、配送先の位置関係、納品時間、車両入場可否などの条件を踏まえ、稼働可能な別ルートへダイナミックに再配分する運用モデルを構築しました。これにより、従来は営業担当者が代行していた代行配送工数を 60%削減^{*1}しました。この成果を受け、2026 年 11 月より、ケーエスケーの各支店で順次稼働を開始します。

日立とケーエスケーは、これまで先進のデジタル技術を活用した医薬品配送業務の DX に関する協創^{*2}を進めてきました。具体的には、日立的「HDSL」を導入し、現場での検品や受領作業のデジタル化、および配送・作業実績データの一元管理を通じて、現場業務の効率化や配送計画の自動化に向けた基盤づくりに取り組んできました。こうしたシステム基

盤を生かし、当日の配送担当者の稼働状況に応じて、固定ルートを維持する通常配送と、ポイントダイナミックによる動的なルート再編を切り替える仕組みを構築しました。

日立は、産業分野向けに、プロダクトの豊富なインストールベース(デジタルライズドアセット)のデータにドメインナレッジと先進 AI を組み合わせた次世代ソリューション群「HMAX Industry」に注力しています。フィジカル AI のリーディングカンパニーとして、これらをコアとする「インダストリアルソリューション」の提供を通じて、お客さまのライフタイムバリューを最大化し、グローバルに産業を変革することで、豊かな社会の実現をめざします。

*1 対象支店における配送担当者の稼働状況などをもとに、営業担当者による代行配送工数の削減効果を算出。

*2 2025 年 9 月 10 日発表の日立のニュースリリース「[ケーエスケーと日立が協創、医薬品の配送業務の DX](#)」

背景

デジタル技術を活用した物流 DX への期待は世界的に高まっています。世界のデジタル物流市場規模は、2025 年に 376 億 4,000 万米ドルとなり、2026 年の 438 億 9,000 万米ドルから 2034 年には 1,552 億 9,000 万米ドルへ拡大し、予測期間中の年平均成長率(CAGR)は 17.10%になると予測されています^{*3}。こうした市場環境を背景に、日立は、「HDSL」をベースに、医薬品配送の現場知見を反映した独自の計画ロジックを開発してきました。

物流業界では、ドライバー不足や高齢化、働き方改革への対応、荷量の小口多頻度化などを背景に、将来的な輸送力不足への対応が重要な経営課題となっています。特に医薬品物流では、医療機関や薬局などからの注文に対して短いリードタイムで配送することや、急配、厳格な時間指定、確実な受領管理など、高い配送品質が求められます。また、配送計画の作成後にも、追加注文、荷量波動、配送担当者欠員、利用可能な車両数の減少などが発生します。これらへの対応には、病院や薬局ごとの厳格な納品ルールを守りながら、固定ルート、配送先の位置、各ルートの荷量・余力、時間指定、利用可能な車両・配送担当者数など、複数の条件を短時間で同時に考慮する必要があります。

そのため、配送実行段階での調整はシステム化が難しく、現場責任者や熟練した配車担当者が経験と勘をもとに、追加分の割り振りやルートの組み替えを行う運用が残っていました。また、欠員時には営業担当者が配送を代行する必要があり、本来の顧客対応や営業活動の時間が制約されることも課題となっていました。

*3 Fortune Business Insights : [Digital Logistics Market Size, Share | Growth Report \[2034\]](#)

本取り組みの特長

1. 急な欠員時にも病院・薬局への医薬品供給を維持する、ポイントダイナミックによる動的配送最適化

ポイントダイナミック機能は、平常時は配送担当者が走り慣れた固定ルートを維持しつつ、システムが欠員を検知した場合に最適化エンジンを起動する仕組みです。配送先の位置関係、納品時間、車両の入場可否、荷量、各ルートの負荷・余力などの条件を照合し、別ルートでの代行配送が実行可能かを判断したうえで、欠員ルートの配送先を稼働可能なルートへ自動で再配分します。

2. 医薬品物流の厳格な品質管理とペーパーレス化を両立する、NFC^{*4}カードによる電子受領

病院や薬局での医薬品の納品時には、正確な受け渡しと確実な記録が求められます。本取り組みでは、NFC(Near Field Communication)カードを活用した電子受領機能を導入し、これまで現場で行っていた紙伝票による受領作業のペーパーレス化を推進します。配送担当者がスマートフォンで得意先の NFC カードを読み取ることで、事前に登録された受領先情報と瞬時に突合し、受領日時や証跡をデータとして自動取得します。これにより、医薬品物流に不可欠な「なりすまし」や「誤受領」を防止し、配送品質を担保するとともに、紙伝票の回収や保管、支店での照合作業に伴う管理工数を削減し、現場の業務効率化に貢献します。

今後の展開

日立とケーエスケは 2026 年 11 月から、ケーエスケの各支店で順次稼働を開始し、医薬品配送におけるポイントダイナミックと NFC カードによる電子受領の現場定着を図ります。

今後も、ケーエスケが持つ医薬品物流の現場知見と、日立のデジタル技術・物流最適化のノウハウを組み合わせ、倉庫から配送、得意先での受領までをつなぐ物流 DX を推進します。将来的には、配送領域の受注・リソース情報と、倉庫内の作業・設備情報との連携を進めます。さらに、フィジカル AI の活用も視野に、物流センター、支店、配送、得意先までの情報と業務をつなぎます。これにより、状況変化に柔軟に対応する自律型サプライチェーンへの進化をめざすことで、地域医療を支える持続可能な医療物流インフラの実現に貢献していきます。

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エネルギー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

ケーエスケについて

株式会社ケーエスケは、近畿地方に根差した医薬品流通(卸)企業で、バイタルケーエスケホールディングス(東証プライム上場)の主要事業会社の一つです。国内に流通している数多くの医療用医薬品を、安全、安心に医療機関に届けるため、近畿 2 府 4 県に 32 の営業拠点と 3 つの物流センターを備え、地域のヘルスケアを支えています。また、「地域に寄り添う健康スペシャリスト企業へ」をビジョンに掲げ、地域の医療・介護関係者をつなぐ多職種連携会や、認知症「キャラバン・メイト」活動、薬局での健康フェア開催サポート、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)予防啓発活動、行政との各種協定締結など、さまざまな形で地域の健康づくりをお手伝いしています。

詳しくは、ケーエスケのウェブサイト(<https://www.web-ksk.co.jp/>)をご覧ください。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所

[お問い合わせ：製造業・流通業](#)

[向けソリューション：日立](#)

株式会社 ケーエスケ

物流本部 物流戦略部

今川 諭

imagawa_satoru@web-
ksk.co.jp

佐久間 紳嘉

sakuma_nobuyoshi@web-
ksk.co.jp

酒井 遼太

sakai_ryota@web-ksk.co.jp